

登録コード	UA111501	開講年度	2026			
授業題目	解析手法論（人間文化学分野）				担当教員	伊藤 加奈子 他
					副担当	早坂 俊廣・金井 直・佐藤 広英・速水 香織・中澤 光平・葛西 敬之
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	水曜・6時限	
				授業形態	講義	
信大コンピテンシー	非該当					
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」				【授業の達成目標】	
	2 6 UAカリ・総人社，2 5 UAカリ・総人社，2 3 UAカリ・総人社・人間文化学，2 3 UAカリ・総人社・法学					
	【研究科共通】量的・質的分析方法を身につけると同時に、各領域独特の解析手法を学習し、分析力を培うとともに、領域間における手法の差異を認識することにより、各領域の特徴を学び多面的に展開できる応用力を有する。				具体的事例を通じて質的・量的解析の多様な方法を学び、これを用いることで、各領域の課題について多面的な分析ができるようになる。	
	【研究科共通】人間と社会を探究する学問分野間の総合的な知見を活かし、俯瞰的な視野で課題を捉える力を有する。				諸分野の解析方法を学ぶことで専門共通基礎力である分析力を獲得し、個別の課題を俯瞰的に捉えることができるようになる。	
(2)授業の概要	解くべき課題の本質を理解し、その解決方法を見出すためには、現象の正確かつ詳細な観察と分析が先ず必要である。当該授業は、量的解析方法と質的解析方法双方を、具体的事例を織り交ぜて学びながら、諸分野での解析手法の基礎的方法と応用を学ぶ。併せて、諸解析方法の特徴・問題・限界なども理解することを目指す。本授業では人文・社会科学全分野の研究力を支えるのに不可欠な基礎的な能力（分析力）を身につけるため、量的解析方法として重要な統計学の基礎を学ぶとともに、統計的手法だけでは捉えきれない質的問題を扱う解析手法も併せて学修する。					
(3)授業計画	第1回 オリエンテーション・ガイダンス：伊藤加奈子 第2回 漢文訓読という解析手法：早坂俊廣 第3回 美術作品の記述と分析：金井直 第4回 数をどう読むか：佐藤真紀 第5回 言葉をどう読むか：佐藤真紀 第6回 板本書誌学におけるデータ抽出と分析：速水香織 第7回 言語調査の方法とデータ分析：中澤光平 第8回 言語資料、その収集と分析検討：伊藤加奈子 第9回 物語の構造分析：葛西敬之 第10回 映像の統計的スタイル分析：飯岡詩朗 第11回 言語学における量的手法：Ash Spreadbury 第12回 心を測るには？：白井真理子 第13回 質問紙調査を始める，その前に：岡本卓也 第14回 発表・ディスカッション：葛西敬之 第15回 発表・ディスカッション：葛西敬之					
(4)成績評価の方法	出席は前提。各回に課す課題ごとの評価（50％）と最終レポートの到達目標への到達度の評価（50％）の総計で評価する。 90点以上を秀、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可と評価する。 59点以下の場合は単位認定しない。					
(5)成績評価の基準	「分析力」 ・例示された社会課題の要因について、他分野を含め、各領域独特の解析手法を理解して、分析できているか。 「応用力」 ・例示された他分野の社会課題の解決策について、自身の研究分野の解析手法を応用した提案がなされているか。 「俯瞰力」 ・例示された社会課題についての他分野の解析手法について、正確に理解した質問やコメントができているか。 ・例示された社会課題の解決策を、他分野の解析手法を含め、総合的に解決する方策を提案しているか。これらの力について、極めて高い水準にあれば【卓越している】、非常に高い水準にあれば【かなり上にある】、高い水準にあれば【やや上にある】、一定水準にあれば【その水準にある】と判断する。					
(6)事前事後学習の内容	授業終了時に次回の講義で扱う範囲を紹介し、予習すべき教科書もしくは参考書の範囲、その他事前学習の内容を指示する。					
(7)履修上の注意	・全員必修の授業科目である。 ・無断欠席・遅刻は厳禁。 ・止むを得ず欠席・遅刻する場合は itokana@shinshu-u.ac.jp までメール連絡すること。					
(8)質問、相談への対応	授業中に質問を受けつける時間を設けるとともに、オフィスアワーまたはアポイントメントによる面談で受講生からの質問に対応する。詳細は第一回目の授業ガイダンスで説明する。					
【教科書】	各担当教員が独自に作成したプリントやファイル等を配布する。					
【参考書】	指定しない。					